

夏の青

近詠二十句

二〇一五年七月七日

佐藤 治

厨房の手にやはらかき春の水

晴れてよし雨もまたよし花菖蒲

禅寺の苔ふかぶかと西行忌

紫陽花を剪れば清子を思ひ出す

魂の叫びや樺美智子の忌

新茶汲む大和撫子老ひにけり

志深く太くと牡丹の芽

鉄線花父母の行年越へにけり

泰山木の花きはやかにあげぼのす

憂きことにけじめをつけて江戸切子

白神の青葉若葉のいかばかり

山を抱き海をいだきて夏の青

ぼうたんは大らか虫を遊ばせる

緑さす等々力不動水の音

賜りし傘寿のいのち白牡丹

雲の峰遊行の道の果てしなく

わが背丈すこし縮みて衣更

自分史の白き頁や原爆忌

蛍川つめたき火の粉浴びにけり

生き延びし難民として敗戦忌

